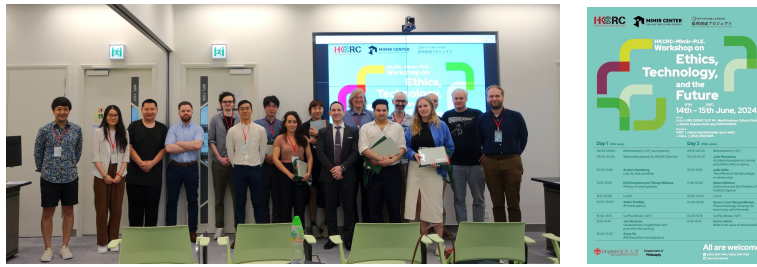


倫理創生プロジェクトの 2024 年度の活動報告



【写真説明】HKCRC-Mimir-P.I.E. Workshop on Ethics, Technology, and the Future の参加者とポスター

【活動概要】

倫理創成プロジェクトは、生命・医療倫理、工業・環境倫理、多文化共生の倫理、そしてジェンダーに関する国際的・地域的課題を解決するため、学際的な研究を継続して実施している。また、阪神・淡路大震災の復興過程で発生したアスベスト問題や、防災教育、多文化共生の問題などに関して研究会を開催している。教育の面では、医療問題も含め、倫理の問題を幅広く総合的視点から扱う倫理創成論の授業も行いつつ、アクションリサーチを通して現代社会の問題に学生たちが直に触れる機会を提供している。

研究成果の公表としては、「倫理創成プロジェクト」の研究紀要として、研究科内外の 21 世紀の倫理創成に関する優れた研究成果を掲載する学術誌『21 世紀倫理創成研究』を刊行している。これは 2023 年 3 月までに第 16 号を発行、国際共著論文の執筆を促したほか、将来の研究や国際交流の担い手となる人材の育成にも貢献している。また、サブプロジェクトである「東アジアの母性礼賛とミソジニー」による研究会の開催、KOBELSI（神戸大学生命・自然科学 ELSI プロジェクト）との共催で高度科学技術社会の倫理的・社会的・法的問題を考察するワークショップや国際シンポジウムを催し、これに海外からの研究者を招聘している。

【活動内容】

本プロジェクトでは、阪神地区で近年、大きな社会問題となっているアスベスト被害に関して、疫学者、化学者、企業の設計者、アスベスト被害者、市民運動家、法律家など様々な分野の方々を招き、これまで多くの研究会を開いてきた。2024 年度においても、5 月 26 日（日）と 6 月 23 日（日）に、連続公開講座「震災の経験を記録する：阪神・淡路大震災とアスベスト被害を聞き取り、語り継ぐために」（「災害とアスベスト：阪神淡路 30 年プロジェクト」実行委員会／神戸大学文学部地理学教室主催）を共催した。第一回の公開講座は「被害の経験に向き合うとはどういうことか」をテーマに、報道や支援の立場からアスベスト被害の現実に向き合ってきた二名をキースピーカーとして招き、被害の当事者とともにたたかってきた経験、当事者の経験を記録するための姿勢や方法をレクチャーしてもらった。第二回の講座は「アスベスト被害の経験を聞く」をテーマとし、アスベスト被害を経験した当事者の生の声に耳を傾けた。

研究機関の学術交流としては、KOBELSI（神戸大学生命・自然科学 ELSI プロジェクト）との共催で、ELSI ワークショップを開催し、2024 年 5 月 13 日に「インフォームド・コンセントと刑法」、2025 年 2 月 10 日に「理科大 ELSI プログラムについて：ELSI に関する若干の科学史・科学論的考察を含め」を催した。12 月 8 日には 2024 年度 KOBELSI セミナー「高齢者や認知症の方の同意能力」を主催した。KOBELSI とはこれまでも公開セミナーとして Kobe Philosophy Seminar Series を開催し、2024 年度中に計 7 回開催した（2024 年 9 月 27 日、10 月 11 日、11 月 1 日、11 月 16 日、11 月 22 日、2025 年 2 月 17 日、3 月 31 日）。3 月 31 日（月）にはイタリアのトリノ大学より Mariaenrica Giannuzzi 氏を招聘した。

また、2024 年 7 月 14－15 日には香港嶺南大学と HKCRC-Mimir-P.I.E. Workshop on Ethics, Technology, and the Future を開催し、これには 10 名が報告、約 30 名が参加した。